



笑顔あふれる場所を目指して

まるで初夏を思わせる陽気になりました。当施設の中庭には様々な花が咲いています。今年は雨が多いせいか、散るのも非常に速くなっており、気候変動の影響を肌で感じています。

先日、新型コロナウイルス感染症が5類になってから1年が経過しました。この1年で様々なことが変わりましたが、基本的な感染対策は継続しております。コロナ後遺症に悩まれている方が数多くおられると報道されていましたが、健康を少しでも取り戻せますようお祈りいたします。

シャローム横浜では4月から3階・4階フロアでの面会を開始して、約1か月が経過しました。面会者の反応は様々で、多くのご家族が初めて生活空間に入られたので「広くてきれいですね」「レストランが賑やかでした」「上にあがれるようになったり、面会が増えているですね」と好意的なお言葉を沢山いただきました。また、「部屋に入った時、本人がマスクを着けていなかった」「前後逆にスポンを履いていました」「部屋が寂し

ぎる」など、様々なご意見を頂くことができ、ようやくご家族と現場の職員とのやり取りが再開できたと実感しております。

思い返してみますと令和2年の初めより、インフルエンザの蔓延に続いて新型コロナウイルスが出現し、それから約4年間は感染予防対策のため、フロアでの面会はできずになりました。その間、生活の場は職員とご利用者のみとなり、外出・外泊もできないなど、第三者であるご家族や地域の方の目を入れることができませんでした。それにより、現場サイドの思いがケアに強く反映してしまい、ご利用者にとって十分なケアを提供できたとは言えない状況にあったと感じています。

今後は職員とご家族が直接会って話をする事で関係性を構築すると共に、地域の皆様との交流を再開して様々なご意見をいただくことで、皆様と一緒にこのシャローム横浜をより一層笑顔あふれる場所にしていきたいと願っております。そのためにも皆様のご指導を心よりお願い申し上げます。

施設長 高原 信夫

春のお花見と体操レクリエーション

日の暖かさがより一層感じられる季節となりました。

4月にはお花見を開催し、多くのご利用者に楽しんでいただきました。

また、特養3階では、レクリエーション担当の職員が、定期的に棒体操を行っております。職員と一緒に、ご利用者にも先生役をやっていただき、皆様とても元気に体操に参加しております。

3階副主任 加藤 啓



第 286 号

令和6年5月 15 日発行
(毎月1回 15 日発行)

責任者:施設長 高原 信夫
〒241-0802
横浜市旭区上川井町 1988
社会福祉法人
アドベンチスト福祉会
シャローム横浜
☎045-922-7333

編集委員
荒金・石川・石橋

<https://www.adventist-welfare.jp/yokohama/>



横浜市高齢者用市営住宅等生活援助員派遣事業

旭区上白根町にあります市営ひかりが丘住宅の高齢者の見守りやお茶飲みサロン、相談業務等をさせていただいております。

この団地は 2,325 世帯という大きな団地で、昭和 43 年から 46 年に建てられ、老朽化のため、現在順番でリフォームを行っております。80 代や 90 代の方々が多く、引っ越しが大変な方々が少なくありません。電話、電気などライフライン移設の連絡など、ご相談いただいたご高齢住民のお手伝いをさせていただいております。

市営ひかりが丘住宅 生活援助員 溝口 成一



ピザパーティー

5月5日、栄養課主催のピザパーティーを開きました。

天気も良く、特養のご利用者・ケアハウスのご入居者の皆様と、楽しい時間過ごすことができました。

ピザは、「シーフードピザ」と「照り焼きチキンピザ」の2種類をご用意しました。

来月は、6月16日に井ぶり屋台を開催する予定です。

栄養課課長 小寺 秀偉



大久保職員が心を込めて作りました！

鳥よりも価値あるものとして

第194回 チャプレン 上前 至

2024 年版・国連の世界人口白書によれば世界総人口は約 81 億人、その内インドが占める人口が約 14 億 4 千万人でついに中国を抜いて世界一位になったという。18%を占めて言ってみれば世界人口の 5 人に 1 人はインド人となったといえる。一方、日本は 13 年連続の人口減少で昨年より約 60 万人減ったという。これは都市が一つ消滅したともいえる。その中で最近、消滅可能性自治体なるものが発表され多くの議論を呼び起こしている。一方、日本は 2010 年より 65 歳以上の人口が 21%を超えて超高齢社会に突入した。さらに今年に入って 75 歳以上の人口が 1950 年以降で初めて 2000 万人を超えたという。これも団塊世帯が全て後期高齢者入りした結果だという。何を隠そう、かく言う私もその最後の団塊を占めるものとして、つい先月、その 2000 万人越えに貢献した一人として複雑な思いを抱かせられる。少子高齢化社

会をまさに形作っている者として正直、ここまで生かされて来たことを感謝しつつも、申し訳ないような複雑な気持ちにさせられるのも事実である。といってもこうした問題に対し、私一人ではいかんともしがたい問題である事も事実であろう。避けてはいけない問題でもある。戦いも必要だろう。しかし、そうした必要は認めつつ、そこに私共はそうした数字の向こうに私共を支えてくれる何かを必要とするのではないか。それを私は聖書に見る。曰く「あなたがたは鳥よりも価値あるものではないか。・・・だから明日のことまで思い悩むな・・・その日の苦労はその日だけで十分である」マタイによる福音書 6 章 26～34 節。

